

未来をひらく

# 竜爪山 九条の会

りゅうそうざん  
きゅうじょうのかい

会報 2010年6月発行 通巻17号

発行 / 竜爪山九条の会・事務局

〒420-0812 静岡市葵区古庄3-19-34 五井卓方

TEL・Fax 054-264-4918

E-mail ryusouzan9zyo@ymail.plala.or.jp

URL <http://www3.plala.or.jp/ryusozan9/>

私たちは  
憲法9条を守る輪を  
ひろげます。

学習会が開かれました。

DVDを見ながら沖縄・安保を考える

5月23日(日)14時～16時 リンク西奈

当日は肌寒い雨降りのお天気でしたが、  
11名の方が参加されました。

DVDは二部構成。前半は「アンポは日本を守ってる?」、後半は「安保の闇、立ち上がる人々」。45分のDVDを見終わってから、お茶を飲みながら、それぞれの思いを語り合いました。

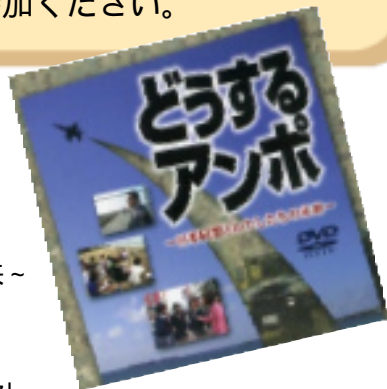
今後も、このような集まりを企画しますので、お気軽にご参加ください。

現在の会員数

呼びかけ人	142名
賛同者	254名
計	396名

DVD『どうするアンポ』  
～日米同盟とわたしたちの未来～

企画・制作 日本平和委員会  
日本電波ニュース社  
2010年1月発売



# 改憲の動きは今・・・

## 国民投票法 5月18日から施行

三年前、国会で成立した「日本国憲法の改正手続に関する法律」（国民投票法）が、この5月18日から施行され、改憲にむかって具体的な作業が可能になりました。

2006年、安倍内閣発足によって、改憲の動きは一挙に加速し、翌年5月の国民投票法成立まで一気に進みました。このような動きの中で、「憲法を守ろう」という運動も大きな広がりをみせ、「竜爪山九条の会」も発足しました。ところが、2007年9月に惨めな形で安倍内閣が崩壊し、昨年には民主党を中心とした政権が誕生し、今、何となく改憲の足音が遠ざかったような雰囲気があります。しかし、ほんとうにそうなのでしょうか。国民投票法も施行され、正面切って改憲を押し進めようとする動きと、解釈改憲によって、平和憲法を骨抜きにしようとする動き、二つのきわめて危険な動きがあります。

## 改憲作業はこのように進められる

日本国憲法第96条には、憲法改正手続に関する規定が示されています。憲法改正は衆議院100人以上、参議院50人以上の国会議員の賛成によって、憲法改正案の原案が発議され、衆参各憲法審査会に諮ったうえ、衆参両院で審議し、衆参各総議員の3分の2以上の賛成によって可決されると、国民投票にかけられます。

ところが今まで、憲法を改正しようとする動きはあっても、国会で具体化するところまで行かず、国民投票に関する法律はつくられてきませんでした。それが、安倍内閣のもと、2007年5月14日、国民投票法案が可決成立し（5月18日公布）、三年後施行されることになったのです。国民投票は、有権者（当面、満20歳以上）による投票でおこなわれ、投票総数の過半数の賛成があれば、憲法改正案が承認されたこととなります。

「竜爪山九条の会」  
発会3周年記念の集  
いが、3月14日(日)  
13時30分からリンク  
西奈で開かれ、54名  
が参加しました。は  
じめに世話人代表の  
栗田寛さんが、挨拶  
をかねて、情勢や会  
の状況などについて  
報告し、続いて本会  
よびかけ人の一人で  
ある水野茂さん(静  
岡古城研究会会長)  
が、「村人たちの戦国と竜爪山」と題して記念講演をおこないました。



3周年記念の集いで挨拶する栗田寛世話人代表

## 3周年記念の集い開かれる



水野茂(みずのしげる)さん

1944年生まれ  
城郭史研究家・写真家  
静岡古城研究会会長  
主な著書  
『今川氏十代の軌跡』  
『ふるさと古城の旅』  
葵区瀬名中央1丁目在住

1月11日「歴史シンポジウム・イン藤枝」  
花蔵の乱 - 隠された真実と諸城跡 -  
主催の挨拶をされる水野さん

## 講演の感想

感想をお書き頂いた  
19名の皆さまの全文です。

大変興味を持ってきかせていただき  
ました。又歴史の勉強をして  
いかなければと思います。60代

雑兵達を村単位で出し、結構、  
村人の考えを通していた事がおも  
しろかった。こんなに城があると  
は思わなかった。60代 女性

新しい知識を得られ大変  
感謝です。70代 女性

しいたげられた平民の苦痛を  
リアルにお話いただきよかった。  
70代 男性

最近、戦国時代の物語や週刊グラ  
フなど出ていて一種のブームになっ  
ているが、「村人たちの戦国」の視  
点でのお話で大変興味深かった。特  
に「乱取り、人取り」の観点は、は  
じめて聞かせて戴き、勉強になりま  
した。70代 男性

民衆、農民の立場から見た  
戦国時代、目からウロコ。面  
白かったです。60代 女性

大変わかりやすく興味深い  
話でした。60代 女性

安倍城趾へハイキングに行っ  
たとき（昔のことだが）のろし  
台跡というのがあったことを思  
い出した。これは武田方との戦  
に使われたことを思い出しまし  
た。しかし、武田方のものか？  
不明。60代 女性

静岡にもたくさん山城があっ  
たと云う事を初めて知りました。  
とても面白い話でした。もっと  
聞きたい。70代 女性

「戦国時代」をばくぜんとして理  
解していましたが、先生の調査や研  
究をお聞きして、いつも住民、農  
民がひどい目にあっていたことが  
わかりました。これから「もう少  
し学びたい」、「さらに聞いてみ  
たい」と思いました。とても良い  
講演でした。ありがとうございます。  
60代 女性

他説も含めて広くみていきたい。  
50代 男性

海音寺潮五郎「平将門」を読んだばかりでしたので、平民の位置、また戦の現実も、再認識です。資料が豊富で、熱心にお話くださったのですが、自身、歴史の認識不足でした。 60代 女性

竜爪登山を月1回のペースで楽しんでいます。山城の事など勉強になりました。 70代 女性

教科書では教わらなかった生きた歴史を学ぶことができました。天変、地変、人買いの事など、びっくりすることが多く、もっと知りたいと思った。 70代 女性

昔も今も農村地域の人には苦労した事を感じた。 80代 男性

地元の歴史をもっと知りたい。興味がある。 70代 男性

改めて考えたことがなかったが、そうだったろうな、と思った。平和は大事だと思いつくづく思う。 70代 女性

庶民の生活がよくわかった。  
60代 女性

自分が住んでる瀬名という所は、いったいどんな所か、以前から興味があったので、今日の講演はすごくよかったです。特に民衆の側からの視点に立ったお話は、ここでしか聞けない話で貴重でした。

全体としては8割が満足、2割が消化不良といった所。

満足した点...具体的な実証にたったお話で説得力があった。生きる為(ききん、きが)勝者は乱取、敗者は奴隷。桶狭間の戦いの話は納得。

不満な点...竜爪山が避難小屋になった、それはわかった。その意味する所は? 当時の全体像、当時(当時っていつ?)何がおこって、山にひきこもるまでのいきさつ。生活どうしてた? 2つの側面のもう1つ、領主の立場での歴史も聞いてみたかった。 50代 男性

後日FAXにて感想を寄せて頂きました。

#### 講演の感想 アンケートの結果

アンケート回収率	55.6%	30名 / 54名
良くわかった		13名
だいたいわかった		10名
難しかった		4名
その他		1名
無記入		2名

# 村人たちの戦国と竜爪山

静岡古城研究会会長 水野 茂

## 1 はじめに・周辺地域の抗争と山城

### 1-1 南北朝時代の抗争

南北朝時代とは、鎌倉幕府が倒れ、後醍醐天皇と足利尊氏が推す天皇の二人が立って、全国的に北朝・南朝に分かれた57年間の対立がありました。「手越河原（てごしがわら）の戦い」が有名です。



「手越河原の戦い」の碑。  
昭和60年、旧長田村の有志により建立。（みずほ公園）



### 1-2 観心の擾乱

観心年間、足利尊氏とその弟・直義（ただよし）の政争がおき、南朝、北朝の対立とあわせて、「天下三つに別れて合戦やむ時あらじ」といわれました。「薩埵山の戦い」に敗れた直義は、鎌倉で捕らえられ謀殺されました。

安名城跡の碑。葵区慈悲尾南朝方の武将・狩野介貞長の山城跡。安倍川にかかる狩野橋は貞長に由来して名付けられた。



発掘された今川氏時代の堀跡（現在の駿府公園）  
今川氏館の場所はまだ、特定されていない。

### 1-3 今川氏の三代にわたる家督争い

今川氏の家督をめぐる戦い、これを内訌（ないこう）といいます。

1. 永享の内訌（湯嶋城の戦い）  
5代・範忠と千代秋丸との争い
2. 文明の内訌（今川氏館の戦い）  
7代・氏親と小鹿範満との争い
3. 天文の内訌（花蔵の乱）  
9代・義元と玄広恵探との争い

## 2 日本の戦国時代とは

### 2-1 戦国時代の重い軍役(公事)

「戦国大名から土地をいただき、お借りして、そのお礼に奉公します」という「御恩と奉公」が根源の封建制度のこの時代は、様々な税金がありました。それを公事(くじ)といいます。

戦国大名は村人たちから年貢などの公事を收取することから成り立ち、それは村が単位になる「村請(むらうけ)」

でした。その中で一番重いのが、軍役(ぐんやく・ぐやく)です。戦う時の陣夫役(じんぶやく)、山城を造る時の普請役(ふしんやく)、荷物を運ぶ時の人足役(にんそくやく)などがありました。

村人は15歳から60歳まで、一人残らず動員されました。戦国大名は村の戦力に期待し、兵力をどのくらい集められるかという目的で「検地(けんち)」を行いました。しかし、村人の中には、「戦に連れて行かれるのはイヤだ。」とあって、逃げ出してしまう者もいました。それを「欠落(かけおち)」といい、記録がたくさん残っています。

戦国時代では、平和は格別のことで非常のことであった。社会のあらゆる次元で、暴力は常に露出していた。すべての者が何らかの攻撃に対して、常に身構えていた。中世戦国とは、ある意味では、身構えた社会と言える。

渡辺昌美(著)

『攻撃と防禦構造』より

## 3 一大転機をむかえた武田信玄の駿河侵攻

武田信玄が永禄11年(1568年)12月、国境を越えて駿河国に侵攻し、12月13日に駿府を占拠します。これから、この地域はものすごい軍事的な緊張、転機を迎えます。

### 3-1 寺社に逃げ込んだ村人

戦火を避けるため、寺社に逃げ込んだ村人は、「制札銭(せいさつせん)」「取次銭」により、身の安全を銭で買いました。制札銭

戦国時代は、飢えと戦いにつきまとわれた時代であった。  
藤木久志(著)  
『雑兵たちの戦国』より

を受け取った武田方は、寺社に逃げ込んだ村人への乱暴狼藉、盗賊を禁じ、寺社の境内にある樹木を切ってはいけないという、禁制（きんぜい）を出し、これに背けば厳罰に処しました。

兵の約90%が、雑兵（ぞうひょう）とか、地下人（じげにん）と呼ばれ、身分は低い。

### 3-2 日本の合戦は雑兵たちの働き場

雑兵たちに与えられた特権（三点セット）

焼き働き（放火）

刈り働き（作物を刈り取って奪うこと）

乱取（敵の所で悪いことをする）

### 3-3 桶狭間の戦いの乱取

『甲陽軍鑑』に  
桶狭間の戦いの記述

それより四年目、庚申のしかも七かうしんある年の五月と申に、信長廿七の御歳、人数七百計にて、義元公の人数二万計にて出給ふを、見きりをよくして、駿河勢の諸方へ乱取にちりたる間に、身方のやうに入まじり、義元公、三川の国の出家衆と、路次のわき、松原にて、「敵八なきぞ」とて、酒盛してまします所へ、切てかゝりて、則、信長公のうちかつて、義元の御くびを取給ふ。此一合戦のでがらにて、日本に其名八かくれなし。

甲陽軍鑑

ポルトガル人の宣教師、ルイス・フロイスが、面白いことを言っています。「日本での戦いは、いつも米や小麦などを奪うためのものであった。」

殺し合いをするような殺戮戦（きつりくせん）というより、食うための戦いであり、合戦場は雑兵たちの働き場でした。

義元の敗因



この時代の戦いの90何%かは、日の出と同時に始まり、昼に決着したという統計があります。そして、勝ち組は乱取に行くのがあたりまえでした。「2万以上の今川軍は、勝ちに乗じて雑兵たちが乱取に走った。手薄になったところを、たった2千か3千の信長勢が味方のような振りをして紛れ込み、義元を討ち取った。」 こう記した『甲陽軍鑑(こうようぐんかん)』は、江戸時代初期に最終的に成立したもので、これが100%間違いないとは言えませんが、一つの記録として興味深いことです。

## 4 『妙法寺記』が伝える甲斐国

### 4-1 全国規模の大飢饉

天文年間には、暖気、大寒、大雨、大雪、大風、地震、日照りといった、日本列島規模に異常気象が起き、おまけに疫病もはやりました。特に天文9年から11年(1540~1542年)までの3年間は、百年に一度といわれる全国規模の大飢饉がおきました。

妙法寺(みょうほうじ)は河口湖畔にある寺。『妙法寺記』は戦国時代の富士山麓の生活状況、戦乱、気象、天災等を事細かに記録したものの。

「食っていけないんだからしょうがないんだ。」と、村人たちは勝手に徳政と称して、土倉・酒屋・金融機関などを襲う略奪行為に走り、それは日本全土で行われたことが知られています。

### 4-2 武田信虎・信玄が行った飢餓対策

妙法寺記には、「武田軍は信州へ攻め入って城を落とし、あまたの兵の首を取り、男女を生け捕りにした」、と記されています。また、足弱(あしよわ)といわれる、女・子ども・老人たちも身代金目当てに人質に取りました。しかし、身代金を取れない時は、海外、特に東南アジアへ売り飛ばしてしまいました。「乱暴狼藉」という背後に、ゲリラ戦や暴力による略奪・売買のプロが雇われていたのです。

敵が攻めてくれば、乱暴狼藉、放火、盗賊、乱取、人取はあたりまえでした。農民、村人達は当然身構えます。武装し、一揆を起こしました。この一揆は、江戸時代の一揆とは異なり、考え方を一にした人達が集まることを、一揆と呼んでいます。

## 5 愛鷹山中の山小屋

文献に出てくる山小屋に小麦石小屋（こむぎいしごや）があります。現在の富士市須津、須津川（すどがわ）の上流、愛鷹（あしたか）山中にありました。村単位、郷単位で管理して、そこに入る小屋が存在したということが明確に伝わっています。

## 6 竜爪山は村人たちの避難所か

11ページ「縄張図」参照

竜爪山（りゅうそうさん）は、薬師さん、文珠さんという、仏さまの名を頂に冠した信仰の山です。その他にも雨乞いの山、猟場の山、金山の山、牧の山などの機能があるとされています。

### 6-1 穂積神社は城郭構造か

### 6-2 行翁山で確認された城郭構造

### 6-3 若山にも城郭構造



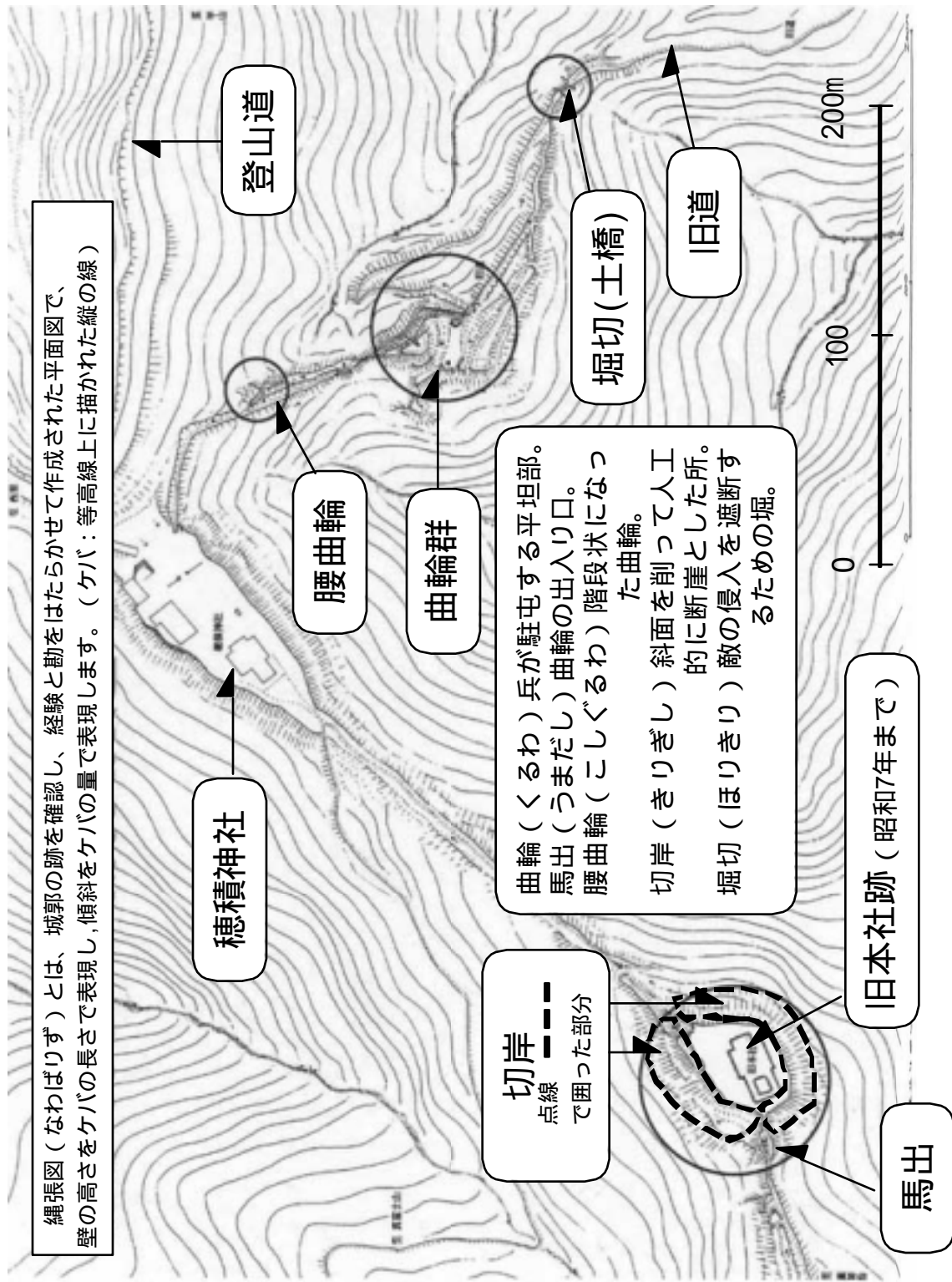
### 6-4 13年前に発見した長尾砦

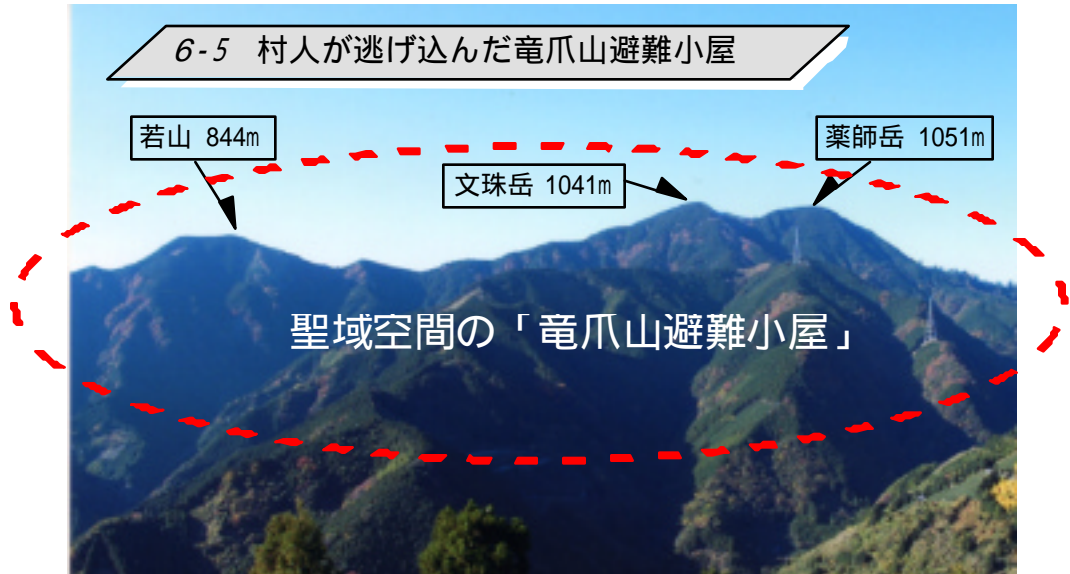
国土地理院  
1/2.5万地形図より

1997年、長尾砦（ながおとりで）を発見しました。当時の記録、地元の伝承、地名もありませんでした。場所は、長尾集落の背後の所です。

# 穂積神社周辺の縄張図

縄張図（なわばりず）とは、城郭の跡を確認し、経験と勘をはたからせて作成された平面図で、壁の高さをケバの長さで表現し、傾斜をケバの量で表現します。（ケバ：等高線上に描かれた縦の線）





竜爪山域の調査から、穂積神社の旧本社一帯・若山・行翁山から、曲輪・切岸・堀切などの遺構が見つかり、まさしく山城形態であることが確認されました。こういった構造を見ると、竜爪山山中というのは山小屋、言い換えれば、山城の一つであると思っています。

竜爪山山系は、あくまでも信仰の山、これが中心の聖域空間です。そして、駿府周辺の多くの村人たちが独自の避難所を確保し逃げ込んでいた、「竜爪山避難小屋」という位置づけができると思います。

まだ調査は四分の一が終わったところで、これから更に面白い発見がたくさんあると思います。そして最後に、竜爪山中で堀跡や平らで人工的なところがあつたらお教え願いたいと思っています。

後日、講演のすべてと資料をホームページに掲載します。 講演要約 寺井久美子

戦乱による火災のために全  
てが破壊された。  
一般に地域の領主と村の有  
力者は、要害山地にある城郭  
に住み、その他の村人たちは  
山中の森林や深山、また叢林  
(草深い所)に住み、それら  
の家屋はいずれも、通常、茅  
や乾草でできていた。

ポルトガル人の貿易商人  
ジョアン・ロドリゲスが残した  
記録。『大航海時代叢書』より



映画 『日本の青空  
～いのちの山河』

監督 大澤豊

はじめの雪のシーンで映画に引き込まれた。1945年3月10日の東京大空襲直前の2月、私達一家は住んでいた江東区深川から父の郷里である新潟県の豪雪の町に空襲を避けて疎開した。以後、高校卒業までの14年間、3～4mの積雪に悩まされる雪国の生活上の苦しみ、困難をイヤという程味わってきた私にとってあの雪のシーンは身につまされ、見ているのがつらくなった。

沢内村同様、当時ブルドーザーという便利な除雪機械はなく、12～4月までの半年間は交通途絶、吹雪の中を往復12kmの雪道を長靴をはいて隣市の高校まで通学した。だから沢内村民の苦勞がよくわかる。粗末な木造の町立診療所があるのみで医療環境も悪かった。



人は誰でも健康で長生きしたいと思う。

この欲求は自然権、生存権の中でも最も重要で大切な基本権である。この基本権を保障するのが政治、行政の仕事であり、政治家の責任である。

映画『日本の青空  
～いのちの山河』  
ホームページより

話を一挙にとばす。60才での定年退職後、イギリスへ短期留学した。ホームステイした家の主人や、団員として入り、一緒に歌っていた地元の合唱団のメンバー達と日英の社会について色々と話した。貧弱な英語力しか持たぬ私であるが、イギリスの社会保障、医療、福祉政策が日本よりすぐれている事がわかった。

現在、私の息子も含めて健康保険、国民年金未加入のワーキングプアが増えつつある。低収入の為、払いたくても払えないのである。ホームレスもなくなり、自殺者も3万人。病気にでもなったらどうなるのだろう。親としては息子の将来、身体の事を思うと心配で仕方がない。日本の現行システムを北欧のように改革すれば良いのである。憲法は病んでいる。9条、25条は特に軽んじられ、蹂躪されている。国、自治体の政治家を選ぶ私達の人権感覚が問われている。

宮 秀雄 (古庄)

日頃の忙しさを理由に、改憲の動きにはのんびりしていました。国民投票法が施行されるということで、改憲が現実味を帯びてきたと言われても、何かまだピンとこなかったのですが、いちおう危機感をもたなければいけないのかと思って情勢をみると、おおかみが羊の毛皮をまとったごとく、さりげなく、したたかに進行しているではあ



## のんびりしていました

北野 豊 (古庄)

りませんか。あらためて前号の会報を読み返してみると、事務局長の「新年のごあいさつ」や、

関さんがまとめてくれた小笠原康晴氏の講演でも、すでに警鐘が鳴らされていました。どうも私は完全に読み飛ばしてしまったようです。

改憲を推し進めようとする動きとしては、自民党を離党し、新しい政党を結成した平沼赳夫氏が気になります。平沼氏は「日本会議国会議員懇談会」の会長で、憲法改正が年来の主張とか。そう言えば、この新党の命名者、石原慎太郎東京都知事も、入会には血判が必要だったと言われる自民党「青嵐会」の出身ということで、三年前には勢いづいていた改憲の動きが、その後、失速してしまったかのような状況に、いらだちを感じている人たちが今、たちあがってきたのかな、という思いがします。

解釈改憲によって、平和憲法を骨抜きにしようとする動きは、安倍内閣の時にもあったようです。2007年4月25日、安倍内閣は、政府の憲法解釈で従来禁止されてきた、集団的自衛権行使を可能にするため、「個別事例」について研究する有識者会議の「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会」を設置しています。

しかし、このところ何といっても気になるのが、民主党の小沢一郎幹事長の動きです。2009年10月13日、小沢氏は会見で、国会改革の第一弾として、官僚の答弁を禁止するなど、国会法改正案を提案したいと述べました。小沢氏がとくに念頭に置いたのが、内閣の憲法解釈などを担当してきた内閣法制局長官の答弁禁止。その背景には、1991年、湾岸戦争に際して、当時自民党幹事長だった小沢氏が、国連協力を口実に、自衛隊を派遣しようとしたのに対し、内閣法制局が「“派兵”に道を開く解釈の変更は認められない」と答弁したため、実現しなかった経緯があるといわれています。国会における官僚答弁の禁止によって、政治家の判断だけで、とめどなく憲法解釈が広げられていく危険性があります。

沖縄の米軍普天間基地移設問題でも、鳩山内閣は大きく揺れています。軍事基地が良いものならば、全国各地で誘致合戦が起るでしょう。ところが現実には、全国どこも「反対!」。これは、軍事基地などどこにもいらないことを示しているのではないのでしょうか。日本国憲法によって国を守り、アジアの平和、そして世界の平和に貢献していく。それが、この国の「いき方」だと思うのですが。

# 盛りあがった新年会

ワンコインで新年会をやりましょう！という呼びかけで1月24日、竜爪山九条の会の新年会が開かれました。真冬とは思えない暖かな日和に恵まれ、広々とした会場に25名が集いました。

九条ランチョンマットに、九条守り箸、花のついた蠟梅枝の箸置きが置かれ、テーブルにはポテトサラダ、グリーンサラダ、合鴨燻製、れんこんのキンピラ、ごまめ、昆布巻き、聖護院酢漬、更にメインの猪なべ、五穀米・白米・赤飯のおにぎり、白菜漬け・すぐき漬、ヨモギの大判焼き、金柑の寒天寄せ、みかんと食べきれないほどの料理が並んでいました。飲み物は、ビール・日本酒・にがり酒・ワイン・焼酎とよりどりみどり。

栗田ひろし世話人代表の挨拶、最年長・紅林さんの音頭で乾杯。楽しい歓談が始まりました。

宴が盛り上がったところ、はずれなしのお楽しみ抽選が行われました。もれなく入った刺し子布巾・九条絵はがき。更に皆さんのご協力で寄せていただいた豪華な景品！書籍、タオル、ネクタイ、袋物、九条ねぎ、などなど。楽しそうに景品の袋を開けた皆さんから、よろこびの感想が述べられました。

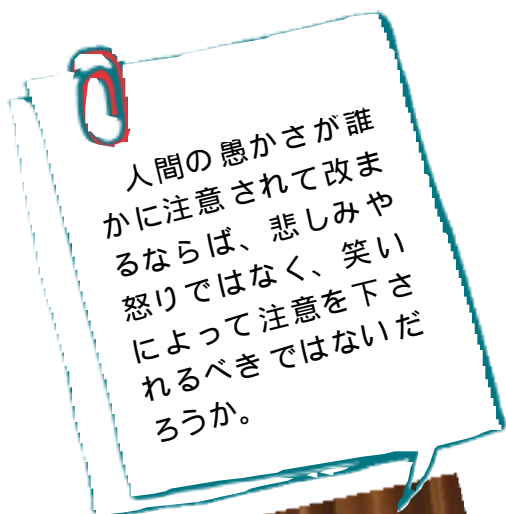
出席されなかった望月さん作詞の替え歌「九条讃歌」を稲垣さんが歌いだすと、それにつれてみんなも声を合わせました。

ウサギ年の新年会もよろしく！

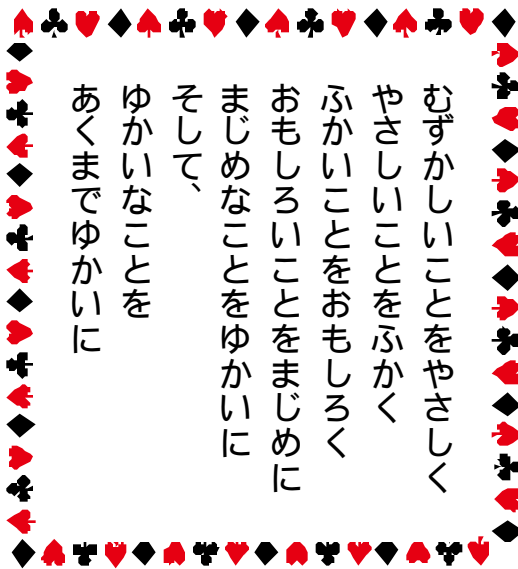


## 井上ひさしさんが死去

「九条の会」呼びかけ人・九氏のお一人、劇作家の井上ひさしさんが、4月9日夜、肺がんのため亡くなりました。1934年生れ、75歳でした。2007年に小田<sup>まこと</sup>美さん、2008年に加藤周一さんが亡くなられ、九氏のうち三氏が亡くなられたこととなります。亡くなられるまで日本国憲法を守りぬく運動をされた三氏の思いを受け継ぎ、さらに運動を強めていきましょう。



2008年3月21日  
めっちゃええやん  
憲法9条  
「九条の会・おおさか」  
のつどいで井上さん



井上さんが創作の目標とし、色紙にも好んで使ったという文章。

## 美和で冊子発行

【美和地域憲法を学ぶ会】は昨年12月、『美和の人々と戦争』と題する冊子（A4版、80ページ）を発行しました。これは、「美和地域戦争体験を聞く会・語る会」の第1回から第11回までの記録をつづったものです。

冊子の表紙



編集後記  
「生きていることに窮状を感じるけれども、本当の生き方は九条にある」とは、藤本義一さんの弁。菅新政権は、はたして今の窮状を打開してくれるでしょうか。会報の「私もひとこと」に皆さまの投稿をお待ちしております。梅雨の季節、お心爽やかに過ごされませうように。寺井